

平成31年度全国学力・学習状況調査結果の概要

★平成31年度調査結果（平均正答率と経年変化）

平成31年4月18日実施。全国の小学6学年児童と中学3学年生徒が対象。

英語の結果は全国水準

今年度初めて実施された中学校の英語は全国水準の結果でした。本市では小学1学年から大阪府公立小学校英語学習6カ年プログラム「DREAM（ドリーム）」を活用した取り組みや、高学年を中心にALT（Assistant Language Teacher：英語指導助手）とともに学習を

進めるなど、子どもたちが楽しみながら自然に英語を学習しています。また、小中学校の英語教育推進のための連絡会を実施し、教員の指導力向上にも努めています。今年度の成果をもとに、今後もより一層の充実を図ります。

算数・数学の結果は全国水準まであと少し

学力向上3ヶ年計画に基づき、小学校における「土曜日フォローアップ教室」、小中学校における「夏休みフォローアップ授業」などの取り組みにより、児童生徒への支援を充実させてきました。授業では「振り返り活動」や「話し合い活動」を取り入れ、児童生徒の「わかった」、「もっとやりたい」の気持ちを育む授業を行っています。今後も市全域で支援の必要な児童生徒へのフォローアップ対策を進めるとともに、子ども主体の「算数・数学」の授業づくりを推進していきます。

国語の結果は大きな課題

小学校では来年度から、中学校は令和3年度から本格実施となる学習指導要領に示されているとおり、予測不可能な状況においても対応できる資質・能力を測る「記述式設問」の正答率については、各校での取り組みにより一定の成果が見てとれます。しかしながら、基本的な漢字の読み書きや、接続語の使い方などは大きな課題が見られました。今後、学校では「自覚的に言葉を扱える」児童生徒の育成をめざして、授業づくりを進めていきます。併せて、各家庭では基本的な学習習慣の定着に向け、ご協力いただきますようお願いいたします。（※児童生徒質問紙でも「家庭学習の時間」の30分未満の児童生徒の割合が全国より高く、学習内容の定着が困難な児童生徒が多くいることが予想されます。）

★全国と比べて、間違いが多かった問題（国と市の平均正答率の開きが大きい問題）

小学校 国語 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題

（問題）公衆電話について、かんしんをもつ（正答率）市：25.8% 国：35.6% 差：-9.8%

（正解）関心（誤答例）感心 関心の2文字の内、どちらかが空白、または間違った漢字を書いている

⇒漢字を書くといった反復練習だけでは身につけません。漢字の持つ意味を理解し、文や文章の中で正しい使い方ができているのかを、見つめ直させることが大切です。

中学校 数学 反比例の表から、XとYの関係を式を使って表す問題

（正解） $Y=-6/X$ または $Y=-6\div X$ または $XY=-6$ （誤答例） $Y=6/X$ $Y=-6X$ $Y=X-6$ など

（正答率）市：37.2% 国：48.9% 差：-11.7%

⇒反比例は限られた学年での学習であるため、復習などでしっかりと身に付けることが大切です。また、比例より日常的な活用の頻度が低いいため、日ごろから具体的な事象を表やグラフを用いて表したり、式で表したりして習得することが必要です。

中学校 英語 情報に基づいて、一般動詞3人称単数現在時制の否定文を書く問題

（問題）ペット(pet)を飼っていないという情報を、彼女を主語にして英文で書く

（正解）She doesn't have any pets. または She has no pets.（正答率）市：33.6% 国：37.4% 差：-3.8%

（誤答例）She don't have a pet. She is not have pet. She is not a pet.

⇒文の誤りを見つけ修正させる学習や、対話を通して学びを深める活動を多く取り入れることで習得させましょう。

平成31年度全国学力・学習状況調査結果（平均正答率%）

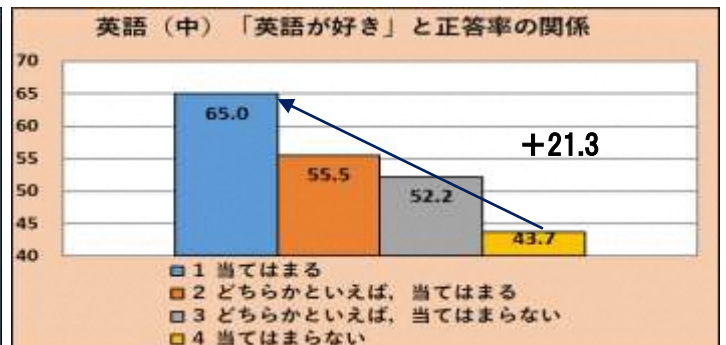
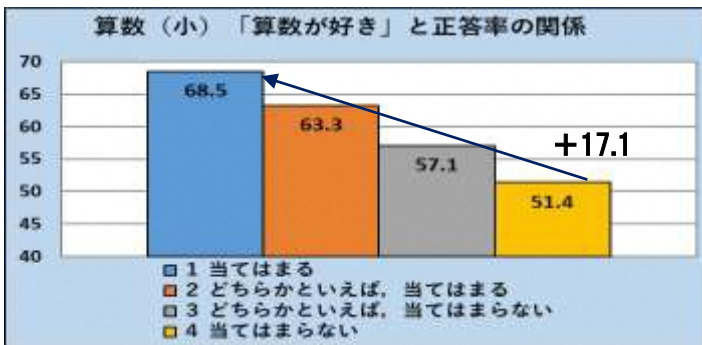
校種	市・国	国語	算数・数学	英語
小学校	四條畷市	56	63	
	大阪府（公立）	60	66	
	全国（公立）	63.8	66.6	
中学校	四條畷市	67	56	56
	大阪府（公立）	70	58	56
	全国（公立）	72.8	59.8	56.0

★教科の勉強が好き子どもほど、その教科の正答率が高い（児童生徒質問紙より）

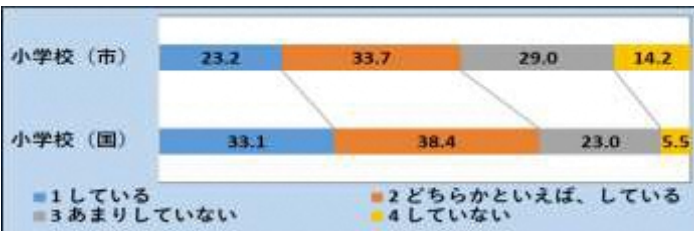
児童生徒質問紙に児童生徒が回答した結果のなか、全国と比べて肯定的回答が多かった質問項目を3つ挙げると、小中学校ともに「教科が好き」の項目が上位でした。

下のグラフは質問紙回答選択肢と正答率との相関を示したものです。小学校では算数、中学校では英語の「勉強が好きですか」の問いに対して、「当てはまる」と答えた子どもの正答率が、「当てはまらない」と答えた子どもの正答率より、それぞれ 17.1 ポイント、21.3 ポイント高い結果となっています。学校では、知識だけを覚えるのではなく、「なぜだろう」→「調べる」→「分かった」→「もっと知りたい」のサイクルを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を行っています。「勉強が好き」という気持ちが主体的に学ぶ態度に繋がり、学力のアップにも繋がっていることの表れと言えます。

- 小学校
- ① 算数の勉強が好き
 - ② 算数の解答時間は十分だった
 - ③ 算数の授業の内容はよく分かる
- 中学校
- ① コンピュータなどのICTをよく使用していた
 - ② 英語の解答時間は十分だった
 - ③ 英語の勉強が好き



★家で自分で計画を立てて勉強している子どもほど学力が高い（児童生徒質問紙より）



質問紙の「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」に対して、「している」、「どちらかといえば、している」と答えた子どもの割合は、小学校は全国を下回り、中学校はほぼ全国並みです。下のグラフは「計画的に勉強している」と正答率の関係を示しています。小中学生とも計画的に勉強している子どもほど、正答率が高いことが分かります。



学校・家庭・地域の連携

各校では、本結果を踏まえ、詳細に分析し、課題抽出と共有のうえ、対策を講じ、また、各校で成果が見られた実践を教育委員会で集約し、市内各校に広く普及していくことで、四條畷市の子どもたちの「確かな学び」を育ていけるよう取り組んでまいります。

各家庭では、「朝ご飯を必ず食べさせる」、「10時以降に携帯電話等を使わせない（10まで運動）」など、引き続き子どもたちの規則正しい生活習慣の定着を意識していただき、地域では、引き続き、子どもたちの見守りと温かいお声かけをお願いします。

今後とも、「学校・家庭・地域」が連携し、本市の子どもたちの健全育成が図られるようご理解とご協力をお願いいたします。